日頃からダムに関心を持ってもらい地域活性化につながるダム広報の取組み
～職員の手作りによる企画と実行～

二瀬ダム管理所　総務係　近藤　好之

１．はじめに

荒川上流域の秩父市には、二瀬ダムをはじめ滝沢ダム、浦山ダム、合角ダムの四つのダムがある。これらのダムは、流域の安全・安心を図るために、長年にわたりその重要な役割を果たしています。しかしながら、一般にはその役割や機能などが必ずしも正しく理解されていないのが現実でもある。

また、一方でダム水源地域では、過疎化、高齢化が進み、観光の入り込み客数も減少傾向にあり、雇用機会も減る等、地域の活性という点でたいへん厳しい状況にある。

ダム管理者として、ダムの役割や機能を正しく理解してもらいつつ、水源地域の活性化にいかにして貢献、支援できるだろうか。

二瀬ダム管理所では、日頃からダムに関心をもってもらえるようなダム広報等を通じて、ダム水源地域の活性化につながるように努めています。

２．平成１９年度に実施した主な取組み

２．１　「荒川水源地域フォーラム」の開催

水源地域の自立的、持続的な活性化のためには、地域の主体的な活動と流域の視点からの交流・連携が大切です。そこで、地元秩父市で活動する団体や流域の中下流で活動する団体のリーダーに集まってもらい、各水源地域の交流・連携強化方法を話し合ってもらう「荒川水源地域フォーラム」を開催しました。

【写真-1】フォーラムの様子

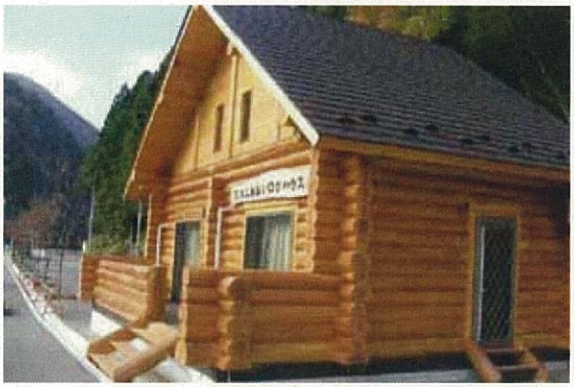
このフォーラムは、「荒川源流ダム水源地域ビジョン推進委員会」のメンバーの内、地元活動団体や地域住民が中心となり企画・運営できるよう、ダム管理者として働きかけ及び支援を行いました。今回は「ヒトづくり」・「モノづくり」・「仕組みづくり」の３グループに分かれて話し合いを行いました。そして、下記のような課題がフォーラムで挙げられました。

- ＮＰＯやボランティア団体等は、各々の活動が忙しい。（人不足）
- 活動費の確保が困難。（資金不足）
- 実際に活動できる場所が少ない、制約が多い、明確でない。（活動の場不足）
- 水源地域の資源に関する情報が十分でない、統一性がない。（情報不足）

フォーラムでの課題については、ダム水源地域の自立的、持続的な活性化を図るために、具体的な検討を今年度行っています。

２．２　「荒川源流でログハウスを造ろうプロジェクト」

このプロジェクトは、自然豊かな荒川の魅力を再認識し、荒川における文化の発展への貢献の一環として実施された、地元大滝のＮＰＯ法人（ＮＰＯ・森、ＮＰＯ・大滝）と二瀬ダム管理所による協働プロジェクトです。



【写真-2】荒川ふれあいログハウス

【写真-3】ボランティア＆スタッフ

プロジェクトは、上中下流域の一般の方々からボランティアを募り結成され、平成１９年５月２７日にスタートしました。その後、参加ボランティア（計１１名）及びスタッフの手により、地元ＮＰＯ講師の指導のもとで、約半年（計１９回）をかけ「荒川ふれあいログハウス」を完成させました。

完成したログハウスは、二瀬ダムや荒川流域の情報発信拠点、荒川流域の活動団体などの活動拠点として、平成１９年１１月２０日から一般開放しています。

ログハウスは、地元産の間伐材使用と、手作り（共に汗を流す体験）というところがポイントです。ログハウス造りの合間には、荒川源流の素晴らしい自然について熱く語り合ったり、二瀬ダムの見学を行ったりして、水源地域の大切さやダムの役割・機能等について改めて知っていただきました。

ログハウスの完成式典では、達成感の証として参加者に「荒川源流ログハウス技士認定証」を発行しました。

２．３　「秩父に四つのダムがあるのをご存じですか！？」

荒川上流域（秩父市内）では、荒川上流ダム群（二瀬ダム、滝沢ダム、浦山ダム、合角ダム）が日々活動しています。ダム見学等を通じて、もっと深くダムのことを知ってもらいたい、荒川水源地域の活性化につなげたいという目的から始まったのが秩父４ダム連携です。

この秩父４ダム連携の第一弾として、「秩父４ダムに行って、『二瀬ダム手作りカード』をゲットしよう！」を現在も実施中です。この企画は、それぞれのダムを巡り４枚のダムカードを手に入れた方だけに、『二瀬ダム手作りカード』をお渡しするというものです。コスト縮減を意識した「手作りカード」、他機関ダムとの連携がポイントです。カードはもちろんのこと、４ダム連携のチラシ【図-1】など全て職員による手作りです。

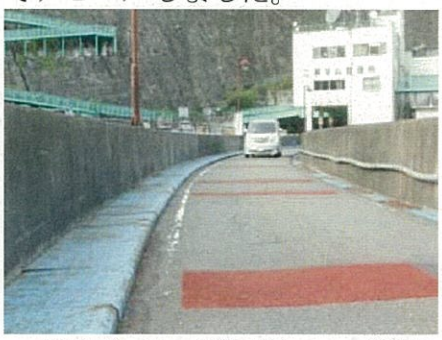
【図-1】４ダム連携のチラシ

２．４　流木の無料配布とダムの効果

【写真-5】流木の配布看板

平成１９年９月に関東地方を襲った台風では、二瀬ダムに上流から大量の流木が流れ込んできました。二瀬ダムではこの流木を、「荒川・奥秩父産の流木をご自由にお持ちください！～台風９号の贈り物？～」というキャッチフレーズで一般の方々に配布を行いました。併せて、ダムによる流木被害を防止する効果についてアピールしました。

２．５　「秩父締め・速度抑制舗装」の実施



【写真-6】二瀬ダム上の道路

二瀬ダム管理所では、二瀬ダム上の道路（一般県道秩父多摩甲斐国立公園三峯線）に、速度抑制舗装を施工しました。この速度抑制舗装は、通行車両の走行速度を減速させることにより、歩行者及びダム施設点検時の安全確保を図ることを目的としています。

もう一つの効果として、二瀬ダム上の道路を通る際、車内にて秩父締め（三三一拍子）のリズムを感じとることができるようになっています。「秩父締め舗装」が話題になり、大滝地区の活性化につながることを期待した取組みです。

２．６　「二瀬ダム携帯サイトによる情報提供」

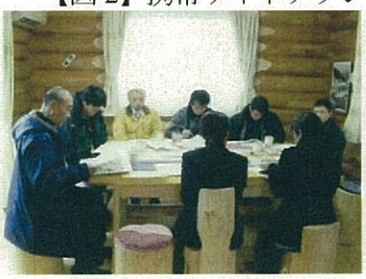
二瀬ダム管理所では、ダムの役割、機能などを広く一般の方々に知っていただけるように、より幅広く、身近に、手軽に、情報を入手できる「携帯サイト」を充実させています。リアルタイムで雨量・水位・ダム情報を確認できる「国交省レーダ」、荒川源流の天候や新緑などがチェックできる「Live カメラ」、ダムに関心を持ってもらうために、二瀬ダム管理所スタッフの日々の仕事や暮らしの中から様々なエピソードをお届けする「二瀬だより」など、防災情報・生活情報を提供しています。

職員の手作りによる携帯サイトのチラシ【図-2】でアナログによるフォローも行っています。

【図-2】携帯サイトチラシ

３．取組みの成果

３．１　「お見合いプロジェクト」の開催



【写真-7】お見合いプロジェクト

「荒川水源地域フォーラム」で知り合ったグループ同士が意見交換を行う「お見合いプロジェクト」が「荒川ふれあいログハウス」で開催されました。「水源地域で受入可能な活動」、「水源地域で要望するサポート内容」、「荒川流域で

連携を始めたい活動」などについて話し合いが行われました。また、フォーラム参加者のメーリングリストを作成し、より一層の連携強化を図るために利用しています。

３．２　「荒川源流ログハウス技士会」の発足

「ログハウスプロジェクト」の意志を引き継ぐ形で、荒川流域のサポーター組織として「荒川源流ログハウス技士会」（現在会員２２名）が発足しました。実際に荒川源流の素晴らしさを体験した会員が、自然豊かな荒川の魅力を再認識し、流域の文化への貢献を行うことは、荒川流域にとって強力なサポーターと言えます。現在は、公共施設への寄贈用ベンチの製作や源流域の視点場作り、ログスクール企画等を実施中です。

３．３　レアカードとして浸透

「二瀬ダム手作りカード」は予想以上の好評で、現在でも様々な地域の方々に配布を行っています。好評がゆえに、テレビ番組でレアカードとして紹介されました。配布の際、答えていただくアンケートには、こういうイベントをたくさんやってもらえれば何度でも訪れてみたい、秩父市に四つダムがあることは知らなかった等の意見をいただくことができたので、本企画により地域活性化への貢献につなげることができたと考えています。

３．４　「ダムには、流木による被害を防ぐ効果があります」

流木の無料配布では、流木を使って、流木アートを楽しんでいらっしゃる方が多かったようです。二瀬ダム管理所では、配布と同時に、ダムには流木による被害を防ぐ効果があることについてもアピールしたので、ダムの役割・効果も理解してもらうことができました。

３．５　楽しくて地域の文化に合った企画

秩父締め舗装は、地元でも楽しくて地域の文化にあった粋な試みと評価され、新聞に掲載していただくことができました。また、今まではスピードを出す車が多かったですが、速度抑制舗装以降は見かけなくなりました。

【図-3】新聞掲載記事

３．６　アクセス数の飛躍的アップ

携帯サイトは、親しみやすい話題・情報の提供やフレッシュさを常に意識した更新と、職員の地道な PR 活動などにより、アクセス数が増えてきています。特に最近では、開設直後に比べ、３倍以上のアクセス数を記録しています。

４．　課題と今後の取り組み

課題としては、ダム見学をしたいとの声が多かったが、案内をできる職員数が少ないことや、まだ、流域全体には十分な情報が届いていないということが挙げられます。

今後は、「ダム見学案内マニュアル」の策定や、秩父４ダム連携の新企画などを実施していきたいと考えています。

これからも、職員一丸となって共に汗を流しながら、日頃からダムに関心を持ってもらい地域活性化につながるダム広報等に積極的に取り組んでいきたいと思います。